

平成 23 年 1 2 月 1 5 日

東松島復興推進員だより(第5号)

～地を往きて走らず～

今回は東松島市の宮戸地区で活躍している福原佳代子さん、四倉禎一郎さんの活動をご紹介します。

◎生業再建への協力

奥松島、宮戸地区は名勝松島湾を望む観光と漁業のまちです。

私達推進員は若手が中心となってできた宮戸地区月浜の海苔生産グループから相談を受け、生業再建に向けた活動をサポートしています。

まずは、みなさんの話し合いの場をサポートし、具体的なニーズを聞き出しました。その結果、以下の活動の手段として自分達でホームページを立ち上げたいとの要望が上がりました。

- 海苔養殖業再建のための一口オーナーを募る。
- 再建に向けた取り組みを発信する。
- 観光地としての魅力と再建をアピールする。

海苔養殖業の再建には様々な資機材や資金が必要になります。その一部を賄うため、ホームページ上での一口オーナーを募集したいとのこと。これまでの活動で形成してきたネットワークを活用して、地元のホームページ作成会社に住民の要望を繋ぎました。また、景勝地として名高い奥松島に位置しているので、観光地としての復興も情報発信していきます。

次に震災対応の助成金に係る情報を収集し、助成対象事業の立案のお手伝いをしました。話し合いの結果、海苔養殖の仕込み作業のボランティアを募集し、再開予定の地元民宿に泊まって観光地としての魅力をアピール。海苔製品、宿泊のリピーター獲得に繋げるプランに決定しました。

また復興後の地域問題解決に寄与できるような人材育成と、震災前は十分に活用できてなかった IT ツールによる情報収集と発信の必要性も話し合い、勉強会の開催も事業計画に組み入れました。

助成金申請の話し合いのプロセスにおいて、明らかにグループの積極性が変化してきました。地域を担う人材育成の必要性の部分まで話し合いがもたれています。生業と地域の再生のためには新しい事を始めなければならないという意識が確実に芽生えてきていると思います。



◎女性コミュニティへの協力

仮設住宅で暮らす女性たちが集まれる機会、運動出来る様な機会を設ける事は出来るかと住民の方から相談があり、これまでの活動で知り合った支援団体 JIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク）さんを紹介させて頂きました。

同団体からの支援を受け、女性のための集会を開きました。第1回目は血圧測定や、演歌に合わせた体操、お茶を飲みながらのお話会をし、第2回目は、1回目の内容と脳トレーニング、そして医師による健康相談会を行ないました。数日後、参加者にお会いした時には「凄く良い機会だったー!」「さっきもあの体操の話をしていたところよ!」と、好評でした。このイベントは継続し、毎週行っていく予定です。

これからも様々な方法で、女性コミュニティを支えていく活動を、住民のみなさんと相談しながら続けていきたいと思えます。

奥松島・宮戸島にはたくさんのお名勝があり、とても魅力的な場所です。この魅力を少しでも多くの方々に知ってもらい、もう一度町興しをして光を取り戻そうという地元の方々の願いを受け、我々もみなさんに力も戴きながら日々活動しています。



【奥松島海苔生産グループ 月光ブログ】

<http://gekkoh7.seesaa.net/>

【復興まちづくり推進員ブログ】

<http://hmms0311fm.da-te.jp/>

以上

JICAは、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団（NPO）等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。
